
第2次横芝光町総合計画
後期基本計画策定に向けた
まちづくり住民会議
提言書

令和3年9月

目次

1. 会議の概要	1
(1) 会議の趣旨と目的.....	1
(2) 会議の方法.....	1
(3) 会議の実施状況.....	2
(4) 会議の参加者.....	2
2. 提言	3
Aグループからの提言.....	3
Bグループからの提言.....	8

1. 会議の概要

(1) 会議の趣旨と目的

横芝光町では「第2次横芝光町総合計画前期基本計画（期間：2018～2021年度）」を基本的な指針として、まちづくりを進めています。

「後期基本計画（期間：2022～2025年度）」の策定にあたっては、住民アンケートや小中学生アンケートをはじめ、住民の皆様からご意見をいただきながら進めています。

この「まちづくり住民会議」は、その一環として、まちの理想の将来像や、魅力・課題、未来のまちづくりの方向性と取組アイデアなどについてご意見をいただき、「横芝光町の未来」についての提言をまとめていただきました。

(2) 会議の方法

参加者14名が、7名ずつの2グループに分かれ、意見をカードに書き出しながらまとめるグループワークを中心に話し合いを行いました。

意見をカードに書き出し、似たような意見のカードを整理・分類しながら話し合いました。

その後、話し合った意見をもとに、グループごとの提言書としてまとめました。

(3) 会議の実施状況

以下の通り、全4回に渡り会議を実施しました。

開催日時	ワークショップの内容	
第1回 令和3年 6月28日(月) 18時~20時	○オリエンテーション 「総合計画・まちづくり住民会議とは？」 ■グループワーク 「自己紹介」 「横芝光町の良かったところ・良いところ」	
第2回 7月25日(日) 10時~12時	■グループワーク 「未来に残したい町の良いところ」 「横芝光町の現在の課題」 「未来のために取り組むべきこと」	
第3回 8月26日(木) 18時~20時	■グループワーク 「未来のために取り組むべきこと」 「理想の町の未来像」 「提言書作成に向けて」	
第4回 9月21日(火) 18時~20時	■グループ発表 「『横芝光町の未来』についての提言」 (グループ代表者による発表)	

※開催場所は、すべて横芝光町役場 第1・2会議室

(4) 会議の参加者

14名の参加者が、関心があるテーマなどに基づき、2グループ分かれて議論しました。

Aグループ	Bグループ
大木 典子	伊藤 良治
岡田 和夫	内田 美穂
川島 光男	小川 真弓
五木田 強	向後 寛
越川 幹一	鈴木 喜信
小林 由美子	高木 克彦
永野 貴紀	水野 恵一

(五十音順、敬称略)

2. 提言

Aグループからの提言

【理想のまちの未来像】

“ちょうどいいまち” 横芝光

～住み続けられるまち、選ばれるまち。多彩な議論と効果的なプロモーションで、自ら未来を切り拓いていく、誰にとっても“ちょうどいい”まち～

【私たちの想い】

町の真ん中をゆったりと流れる栗山川。雄大な太平洋を望む九十九里浜、緑の丘陵と田園風景。私たちの横芝光町は、豊かな自然に恵まれています。

また、横芝光町は、JR横芝駅（特急停車駅）や銚子連絡道路などにより、東京をはじめ他の地域と結ばれた、高い交通利便性を有しています。

現在、成田空港の機能強化が図られており、空港のポテンシャルを活かした更なる地域振興が期待されています。

しかしながら、今の横芝光町をみますと、人口減少と少子高齢化が進む中で地域を想う気持ちが希薄化し、“感情の過疎化”が進んでいないでしょうか。住民と行政一人ひとりがわが町のことを『自分ゴト』と考え、若者たちが進学等に際しても「住み続けたい」と思えるまち、大人たちがいつまでも「住み続けたい」と思えるまち、町外の方に「住んでみたい」と選ばれるまち、そんなまちを創っていかなくてはなりません。

その過程では、人と人との基本的な繋がりを大切にしながら、変えるべきは変え、まちの未来をしっかりと議論し合える、風通しの良い、意見を言い合えるまちを創っていく必要があります。また、横芝光町という地域の魅力を効果的に情報発信することや、まちの未来を見据え、地域活性化を促していくための積極的・戦略的な働きかけ（プロモーション）を仕掛けていくなど、地域間競争に打ち勝てる時代に即したスピード感ある事業展開と、効率的な行財政運営が必須です。

【町の魅力と、未来のまちづくりの方向性】

横芝光町は、自然環境の豊かさ、高い交通利便性、成田空港の機能強化に伴う地域発展の可能性など、先人が築き・守り・育ててきた、高いポテンシャルを持つまちです。この魅力を十分に発揮させたい。そのためにも、次の2点をまちづくりの方向性として提案します。

方向性（１）住民と行政が継続的に議論できる場をつくる

◎住民の自発的な議論を促すとともに、その意見を吸い上げたうえで住民と行政とが議論し合える、常設組織を設置する。

（この住民会議の常設化や、ビジネス人材を活かした横芝光シンクタンクの設置等）

◎議論を活性化するため、行政はしっかりと情報を開示し、SNSなどのツールも活用しながら若者の参画を促す。

方向性（２）行政はスピード感をもち、戦略的プロモーションなど質の高い事業を展開する

◎例えば、横芝光シンクタンクに事業創出機能とチェック機能を付与し、行政との情報共有と議論を通じてPDCA サイクルを回し、成果を出せる取組を展開する。

◎戦略的プロモーションを強化する。（子育ての成果を強調したり、不動産情報と子育てに優しい町の施策をセットでPRする、等）

テーマ別

テーマ1 横芝光町のポテンシャルを活かす

【現状と課題】

横芝光町は、自然環境、交通利便性、成田空港との共生など高い可能性を持つまちです。わが町の可能性＝ポテンシャルを活かし切ることがまず重要です。

現状では、栗山川など自然の保全活用、横芝駅や銚子連絡道路周辺の活用、成田空港の機能強化を契機とした取組の進展など、様々な課題があります。

このような状況を踏まえ、次の通り方向性とアイデアを述べます。

【方向性と取組アイデア】

○横芝駅の改良（エレベーターの設置工事と併せたホームの嵩上げなど、更なるバリアフリー化）をJRに要請し、駅の利便性向上に努める。

○「ヨリドコロ」の機能を精査し、高校生などの意見も踏まえ更に利用しやすい施設とする。

○銚子連絡道路IC設置に併せ、魅力的な土地利用を図る。商業施設の誘致や、シェアオフィスの設置などが考えられる。

○成田空港の機能強化を契機とした取組を推進し、空港と地域を結ぶ交通利便性向上を図る。

また、空港関連産業や農業の振興（特産品含む）などにより、雇用と就労機会を拡大する。

○必要不可欠な取組である騒音対策は、地域の実情に即して着実に進める。

テーマ2 子どもたちの未来を応援する

【現状と課題】

横芝光町では、幼保の受け入れ体制（待機児童ゼロ）や、高校生までの医療費、中学生までの給食費の無償化などが実現されており、子育て支援策などが充実していると感じています。また、学校教育にも熱心であり、タブレット配布にもいち早く対応がなされています。

しかし、このような良い取組がほとんど知られていないように感じ、残念です。良い取組を広く町内・町外に発信していけば、若い子どもを持つ親世代を惹きつけられます。

このような状況を踏まえ、次の通り方向性とアイデアを述べます。

【方向性と取組アイデア】

○横芝光町の良い取組を広く町内・町外にPRする。

（例えば、子ども医療費・給食費無料などを、婚姻届や転入届受領の際に役場でもより広くPRする）

○プラムを拠点として、切れ目のない子育て支援を展開する。

また、子育て中の町民や、行政職員・関係団体の交流と連携を更に促す。

○「子育て総合ガイドブック」を積極的に活用する。（紙媒体、及び希望者にはデータで提供）

○東陽病院への小児科・産科の開設など、出産・子育て期の医療充実を図る。

○図書館・スポーツ施設など、学習・運動施設の維持に努める。

テーマ3 安全で安心な災害に強いまちをつくる

【現状と課題】

横芝光町は太平洋に面しており、大規模地震に伴う津波被害が懸念されます。津波対策としては、ハード面の整備と併せて、避難方法や避難場所の周知徹底など、町としてすぐに着手できるソフト面での取組が大切だと考えます。

他方、道路交通の利便性向上に伴い、交通事故の増加なども心配され、危険箇所の解消に向けた取組が望まれます。

このような状況を踏まえ、次の通り方向性とアイデアを述べます。

【方向性と取組アイデア】

○災害に強いまちづくりを引き続き進める。避難方法や避難場所の周知徹底など、ソフト面での取組に力を入れる。

○防災訓練や身近な災害危険箇所の点検など、住民の主体的な参加を促す。

○県道横芝下総線（下総県道）などの主要な道路の交通安全性向上を図る。（危険交差点への信号機設置促進など）

○道路及び沿道を適正に管理する。特に、自転車や徒歩で通学する児童・生徒の通学路について、安全性の確保に努める。（視界・景観を阻害する雑草の繁茂抑制も含む）

テーマ4 海・川と共存共栄する

【現状と課題】

栗山川は、町の中央を流れる横芝光町を象徴する川です。九十九里平野の中では最大の二級水系であり、広い流域面積を有しています。近年では、リバーカヤックなど川を楽しむ試みもなされています。河口付近には、「こどもの国跡地」があります。

九十九里の海と白砂清松は地域の大切な財産です。かつては海水浴で賑わいましたが、東日本大震災や近年のコロナ禍の中、海が、物心両面で遠ざかった感じがしています。

このような状況を踏まえ、次の通り方向性とアイデアを述べます。

【方向性と取組アイデア】

○河川管理者（千葉県）との協議の上、町としての栗山川の活用策を更に検討する。

その際、民間事業者や町民の主体的な参画を促す。

○栗山川の保全に向けたボランティア活動の充実を図る。町民の自主的な活動を活性化する。

○海岸についても管理者（千葉県）との協議の上、町としての保全・活用策を更に検討する。

県・町・民間事業者などによる、総合的な管理・活用を実施していく。

○「こどもの国跡地」の有効活用、海の家を通年営業、無料 Wi-Fi の整備などを通じ、観光振興を図る。ただし、いわゆる観光公害との調整、保全と活用とのバランスは大切である。

テーマ5 住みやすいコミュニティをつくる

【現状と課題】

人口減少と少子高齢化の進行につれて、横芝光町でも、地域における人と人との繋がりは希薄になってきています。特に昨年からは、コロナ禍の中で文化的な行事を含む多くのイベントが中止となるなど、地域コミュニティは大きな打撃を受けています。

コロナ禍以前は外国人の増加も見られており、外国人が住みやすいまちづくりも課題となっていました。今後は、若い人たちの転入を促すためにも、住みやすいコミュニティをつくるのが大きな課題となります。

このような状況を踏まえ、次の通り方向性とアイデアを述べます。

【方向性と取組アイデア】

○自治会加入者が減少しているため、様々な切り口から議論し、コミュニティの意見をまとめていくような新たな場を設定する。（例えば、住民と住民が議論できる常設会議の設置）

○自治会未加入者にも情報が届くよう、様々な媒体や機会を活用して、町政情報を届ける。

○例えばヨリドコロで外国人による外国語教室を企画するなど、多文化共生に努める。

○鬼来迎、屋形や熊野神社の神楽、中台の梯子獅子など、伝統文化の継承を支援する。

○移住定住者の増加を図るため、住宅用地を計画的に確保しコミュニティづくりを支援する。

テーマ6 食の魅力を活かす

【現状と課題】

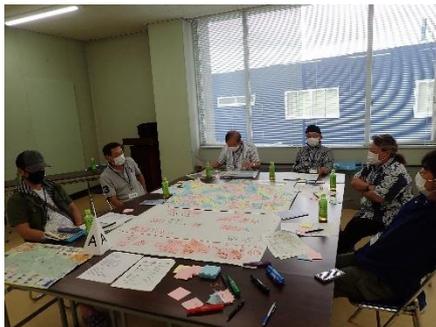
横芝光町出身の大木市蔵は、ソーセージの開発で成功し、ソーセージを日本に広めました。大木式ハム・ソーセージが近年復刻され販売されているだけでなく、モツを含めた食肉文化も根付いており、食の店も多いなど“横芝光グルメ”が成立しつつあるように感じます。

この他、町内には梅やネギなどの特産品、知る人ぞ知る貴重な自家醸造ワインやブドウ畑もあります。このような「横芝光町の食の魅力」を、町民、それから町外の方に、広く知ってもらい地域振興に繋げていくことが考えられます。

このような状況を踏まえ、次の通り方向性とアイデアを述べます。

【方向性と取組アイデア】

- ソーセージやモツ、梅やネギ、トウモロコシ、更にはワインやブドウ畑など、横芝光町の食資源を町民に周知する。
- 食のPR拠点として、ヨリドコロを活用する。ヨリドコロ自体をもっと広く知ってもらい、例えば若い女性でも気軽に活用できる環境を整える。
- JAなどとの連携のもとに、流通・販売面での工夫を図る。取扱店の増加など。
- 千葉県が国に提案した空港周辺での国家戦略特区などを、先行研究する。特区を活用し、海外への輸出品となるような、横芝光町の特産品開発に努める。
- 農業生産者や食品販売者・飲食店などの販売の場を確保する。特産品直売所の充実など。
- 公共施設など（当初の役割を終えたものを含む）を活用し、起業希望者にシェアオフィスを提供する。また、老朽化しつつある食肉センターの有効活用を図る。



Bグループからの提言

【理想のまちの未来像】

誰もが楽しく暮らせるまち

～栗山川を中心とする自然環境と、成田空港に近い利便性を活かして魅力を磨き、若い人も長く楽しく暮らせるまちへ～

【私たちの想い】

栗山川をはじめとして、九十九里浜、田園風景、文化や歴史、農作物、スポーツなど、横芝光町はキラリと光る多くの魅力にあふれています。これらの地域資源について、町民自身が日常生活で気軽に触れるようにすることが、町外に対する魅力アピールへの第一歩となります。地域資源の魅力アップのためには、アピールの焦点を絞るとともに、それぞれの資源同士をつなげて相乗効果を狙うことが重要です。

今住んでいる人、新しく住み始めた人、これから住み始める人、誰もが居心地よく楽しく暮らせるまちをつくっていくには、交流を増やす機会をつくることが重要です。人口減少や少子高齢化、社会の変化によって、求められる交流の方法が少しずつ変わってきています。交流拠点となる場所をつくることで、若い人から高齢者まで世代を超えた交流が生み出されることが期待されます。それぞれの地区の状況に応じたコミュニティ活動を強化するとともに、この住民会議のような、まちづくりの議論ができる機会を多くつくることで、まちの一体感の醸成を進めることが重要です。

【町の魅力と、未来のまちづくりの方向性】

- 横芝光町には、栗山川を中心とした豊かな自然がありますが、十分にその魅力を活かしきれているとは言えません。これらの環境を整備することで魅力をアップし、町内外の人たちが気軽に自然に触れることができるようにしていきます。
- 子育て環境は周辺自治体に比べると充実しているため、成田空港の活用や周辺自治体との協力で利便性を高めるとともに、雇用・住環境も含めてさらに改善することで、特に若い世代が暮らしたくなるまちを目指します。
- 上記で挙げたまちの資源と魅力を町内外へ伝えるため、情報発信の方法を工夫していきます。

テーマ1 豊かな自然を活かす

【現状と課題】

栗山川をはじめとして、遊歩道、海岸の潮干狩り、釣り、梅林、坂田城、鬼来迎など、未開発の自然と文化が多く残っています。ごみゼロ運動が盛んで、自然を守る意識は高いですが、自然を活かして町内外の人々に楽しんでもらう視点が足りていない状況です。

このような状況を踏まえ、次の通り方向性とアイデアを述べます。

【方向性と取組アイデア】

○栗山川を活用する。

(川沿いに安全・きれいなサイクリング・ウォーキングロードを整備することで、老若男女が歩けるようにするなど)

○町民と協力しながら、雑木林・森林・公園・遊歩道などを整備する。

○サーファー向けに海を活用するとともに、サーファーによる自然保護を促進する。

○川の駅・山の駅の検討に向けて、関係するまちと協力して、具体的な提言をする。

○もっと活用方法をアピールする。

○学校・役場等にソーラー発電を設置し、脱 CO2 を図るとともに、災害時にも利用できる電源として確保する。

○伝統文化を受け継ぐ。

テーマ2 地域資源を活かして観光を盛り上げる

【現状と課題】

横芝光町には自然を中心とした観光資源が多いとともに、東京都心や成田空港からのアクセスもよく、観光のポテンシャルを有しています。例えば、歴史のある横芝駅舎や、個性豊かで素敵なペンション、ウォーターガーデン・カレドニアン GC などの地域資源があります。これらの地域資源を十分に活用し、観光をさらに盛り上げていくことができます。

このような状況を踏まえ、次の通り方向性とアイデアを述べます。

【方向性と取組アイデア】

○屋形海岸のトイレ・ビーチをきれいにする、坂田城跡・梅林を整備するなど、誰もが訪れやすい観光スポットを整備する。

○九十九里浜ロングビーチ、屋形海岸、成田空港など広域の地域資源と結び付ける。

○栗山川でのカヤック体験、古民家の利用、橋めぐりなど、地域資源を活用する。

○JR や商工会と協力する。

テーマ3 強みを活かして農業を発展させる

【現状と課題】

横芝光町は、大きな農地があるなど、農業がしやすい地域であり、農業が重要な産業となっています。マルシェで野菜販売をするなど、地産地消を推進する取組が行われています。

このような状況を踏まえ、次の通り方向性とアイデアを述べます。

【方向性と取組アイデア】

- 農産物販売を拡充する。
- 農作物を使った新商品を開発する（例：ネギハンドクリーム）。

テーマ4 子育てしやすく、住みやすい環境を整備する

【現状と課題】

給食費無料、高校3年生まで医療費無料、子育て支援センターや一時保育の充実、学校への通学バスなどがあり、横芝光町の子育て支援は充実しているという意見がありました。

また、テニスや野球をはじめとするスポーツが盛んであり、スポーツ合宿ができる運動施設が豊富にあるため、他の地域から注目されています（横芝中学校からプロ野球選手が輩出されています）。自然が豊かで、のびのびと子育てをすることができます。

子どもの住環境だけでなく、子育て世代が暮らしやすい環境をつくることも重要です。

このような状況を踏まえ、次の通り方向性とアイデアを述べます。

【方向性と取組アイデア】

- 高校3年生までの医療費補助を維持発展させる。
- 自然を活用した遊び場を作る。
- 学校以外の教育の選択肢を増やす。
- 雇用を創出したり、テレワークコーナーのあるマンションを建設したりして、子育て世代が働きやすい環境をつくる。
- 外国人の労働居住環境を改善する。
- プラムの活動を更によくする。

テーマ5 コミュニティの交流を促す

【現状と課題】

地区によって違いはあるものの、都市部と比べると、横芝光町では地域や隣近所とのつながり・交流があります。高齢者ふれあいサロンでのカラオケ、ゲートボール、麻雀、自主防災組織による防災・防火活動などは、地域での交流を活発にするための重要な活動となっています。しかし、少子高齢化とともに、以前より交流が少なくなってきた中で、新たな方法を考えていく必要があります。

このような状況を踏まえ、次の通り方向性とアイデアを述べます。

【方向性と取組アイデア】

- 大総小学校の跡地など、誰もが気軽に話せる交流拠点をつくる。
- 新住民と旧住民の交流を促す。
- 祭りや盆踊りなど、地区ごとに花火大会を持ち回りで開催する。
- 学校と連携して、休耕地を活用した体験農業を行う。高齢者が子どもに農業を教えることで、コミュニティでの交流が生まれることが期待される。
- 区長が協議する機会をつくる。
- 外部からの視点を取り入れる。
- これらの取組により、自治会・コミュニティの活動を強化し、まちの一体感を醸成する。

テーマ6 災害に強いまちをつくる

【現状と課題】

横芝光町は、比較的自然災害は少ない地域でしたが、近年の全国的な自然災害の激甚化・頻発化により、災害に強いまちをつくることは重要な課題となっています。

栗山川の氾濫可能性は比較的低いですが、台風や土砂災害、津波などによる大きな被害が懸念されます。

防災体制については、消防団員の数が減少しています。自主防災組織の活動内容や、栗山川のライブカメラについて、あまり知られていないなど、町民への防災知識の周知が必要です。

このような状況を踏まえ、次の通り方向性とアイデアを述べます。

【方向性と取組アイデア】

- 災害時における対応を強化する。
- 婦人消防団を設立する。

テーマ7 安全で利便性の高い交通をつくる

【現状と課題】

東京都心や成田空港から近く、地理的な優位性はありますが、交通アクセスは改善の余地があります。自家用車の普及や高速バスの充実により、電車の本数が少なくなっており、高校生にとっては不便です。交通が不便になると、人口が減少して、また公共交通が脆弱になるという悪循環に陥ってしまうため、利便性の高い交通の確保は重要な課題です。

このような状況を踏まえ、次の通り方向性とアイデアを述べます。

【方向性と取組アイデア】

- 横芝駅北口の開発や、駅を橋上駅にすることなどにより、横芝駅の利便性を向上させる。
- 成田空港へのシャトルバスを充実させるとともに、道の駅やヨリドコロを活用して広域交

通を充実させる。

○多古・芝山・富里など、周辺のまちと協力する。(南成田市構想)

○成田空港の補助金を有効に活用する。

○栗山川に水上バスを走らせる。

○交通・道路の危険地域の確認と、通学路の安全確保をする。

テーマ8 町内外に効果的な情報発信をする

【現状と課題】

横芝光町には、様々な魅力がありますが、町外にその魅力が伝わっていない現状があります。また、町内に対しても、情報伝達や意見収集を効果的・タイムリーに行うことが必要です。情報発信の拠点となるヨリドコロは、横芝駅周辺に立ち寄る人が少ないこともあり、十分に活用されているとは言えません。

このような状況を踏まえ、次の通り方向性とアイデアを述べます。

【方向性と取組アイデア】

○ヨリドコロを情報発信の拠点として強化する。

○町のHPを使いやすくしたり、使用する媒体を工夫するなど、広報の方法を変える。

○町民発のアイデアを活用する

○町民向けの情報発信を強化し、情報伝達を速くする。

○議会を傍聴する。

